

私の愛する…

私が波乗りを始めたのは、今から25年前に遡ります。当時アルバイトをしていた喫茶店のマスターに誘われて、いきなり冬の日本海へ連れていかれました。当時の私は“波乗りは軟派な遊び”と安易に考えており気軽に海へ入ったのですが、頭から冷海水を浴び、まるで難破船のように波間に漂うばかりで、海に入る前に受けたレクチャーなど、全く役に立たずに、ほうぼうの態で砂浜へ打ち上げられました。その時、自然に対する畏怖と同時に、この過酷な海で大波に乗る人たちの姿に、尊敬と感動を覚え心が震えたのでした。

それからの私は、波乗りバカまっしぐらです。春夏秋冬おかまいなし。春は四国、夏は伊勢・伊良湖、秋に台風が来たと和歌山へ、冬になれば日本海。休日は必ず海でした。季節が3度巡った頃、家で親父に“お前は漁師か”となじられて、母親には“この子なんぞばちが当たったん?”と信心してる神棚に手を合わされ、ついには彼女にも“車でお泊りデートばっかはもう嫌や!”と逃げられる始末です。…が、私はますます波乗りのにめり込んでいき、ついには仕事も辞めて、友人と二人で海に籠もってしまったのです。僅かな貯えでこのような暴挙にでた為、車での寝泊りは当然、食事もインスタントラーメンが中心の過酷な生活となりました。波がある日は波乗り漬けて良いのですが、波の無い雨天日は最悪です。むさい男二人、狭い車内で…、情けないので割愛させていただきます。そんなこんなで3ヶ月、ついに資金も尽き果てて、大阪の実家へこっそりまい戻り、母親の財布からいつもように無断でお金を拝借しようとしたのですが、残念ながら私の放浪中に玄関の鍵が交換されており、逃亡資金が入手できなかった時点で、私の親不孝と短いサーフトリップは、母親の恐怖“ギロチンクローズアウト”級の大剣幕と共に幕を閉じたのでした。

あれから早22年。今もまだ、同年代のおっさん二人で波乗りを楽しんでいます。昔に比べ海に行く回数も減り、波に乗る時間も短くなりましたが、楽しさは増すばかりです。夏の日々の早朝、日の出から強烈な日差しの中でのラウンド。秋の夕暮れ、日没を惜しみながらのラウンドなど、過去何度も入ったことのあるポイントであっても、未だに、その時どきに新鮮な喜びを感じます。もちろん、良い波に乗った時は最高です。風の無い、波の面が良いコンディションで長い距離離れた時。サイズがある波のテイクオフ、“ボトム”で思いっきり板のレールを食い込んだターン。波のトップで板を当て込んだターン、そして激しく飛び散る水しぶき。面白さ・楽しさは数えあげると本当にきりがありません（今、私の頭の脳のシワは完全に伸びきっていると思います）。ただ、楽しい・面白いことばかりではありません。台風の大波“おぼけセット”を喰らい溺れかけたり、ボードが折れたり、河口のポイントで遙か沖に流され戻れなくなったり、かつおのエボシという猛毒を持っているくらげに顔面へ抱きつかれたりなど、死にかけたことは何度となくありました。しかしながらお陰さまで、頭部を4～5針縫う怪我を3度した程度で、なんとか無事に今日を迎えています。



ここ数年来、ロングボードがひじょうに流行っており、昔と違い結構手軽にファンサーフできるようになってきていますが、くれぐれもルール厳守をお忘れなく！ 波に乗る優先権のこと、前乗りの厳禁など基本的なルールが存在します。周りのサーファーと接触事故を起こさない為のボードコントロール技術も必須です。そして何より自分の技量に合ったポイント選びが重要です。ポイントやポジショニングの選択を誤った時、一歩間違えば命にもかかわるスポーツです。自然に対する時、言い古された言葉ですが、人間はちっぽけな・無力な存在です。自然の恩恵を得て波乗りができることを忘れずにいてください。私も、後輩たちや自分の子供に、いろいろな思いを伝えていこうと思っています。最後に、今現在波乗りをやっておられる方へ一言“できるだけ長く続けてください。”そして、これから波乗りを始めたいと思っている方へ一言“波乗りをすれば女の子にもてる、は全くのウソです。自分の顔・体型を鏡でよく見てから、親を恨んでください。”以上！

第一工芸(株) 大越隆二